

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地																				
キャットミュージックカレッジ専門学校		昭和63年3月30日	美根 宏史		〒564-0062 大阪府吹田市垂水町3-29-18 (電話) 06-6369-1101																				
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地																				
学校法人大阪創都学園		昭和63年3月30日	鈴木 雅文		〒564-0062 大阪府吹田市垂水町3-29-18 (電話) 06-6369-1101																				
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士																				
文化・教養	文化・教養専門課程	ミュージシャン学科ボーカル専攻		平成17年文部科学省 告示第176号	-																				
学科の目的	教育基本法、及び学校教育法に基づき音楽表現及び楽曲制作に関し必要とされる技能を養成し、又は教育の向上を図ることを目的とする。																								
認定年月日	平成26年3月31日																								
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																		
2	年間	1760	480	120	1160	0	0																		
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																			
80人の内数		68人の内数	4人の内数	8人の内数	32人の内数	40人の内数																			
学期制度	■前期 4月1日～9月30日 ■後期 10月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 前後期試験結果及び出席・平常点等総合評価																				
長期休み	■学年始め: 4月11日 ■夏季: 7月21日～8月31日 ■冬季: 12月21日～1月9日 ■学年末: 3月21日			卒業・進級条件	前後期試験結果及び出席・平常点等総合評価																				
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 電話・家庭訪問及び保護者との情報共有			課外活動	■課外活動の種類 なし  ■サークル活動: 無																				
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(令和4年度卒業生) 音楽・エンタテインメント業界  ■就職指導内容 ・企業研修/就活対策講座/業界企業合同説明会 ・CATチャレンジシステム/公開オーディション  ■卒業者数 32 人 ■就職希望者数 11 人 ■就職者数 8 人 ■就職率 73 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 25 %  ■その他 ・進学者数: 0人  (令和4年度卒業生に関する 令和5年5月1日時点の情報)			主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和4年度卒業生に関する令和5年5月1日時点の情報)																				
					<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>足場組立に係る特別教育</td> <td>①</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>MIDI検定3級</td> <td>③</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)</p> <p>■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等</p>			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	足場組立に係る特別教育	①	1	1	MIDI検定3級	③	1	0						
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																						
足場組立に係る特別教育	①	1	1																						
MIDI検定3級	③	1	0																						
中途退学の現状	■中途退学者 4名 令和4年4月1日時点において、在学者62名(令和4年4月1日入学者を含む) 令和5年3月31日時点において、在学者63名(令和5年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 ・経済的理由 ・別途進路へ進む為  ■中退防止・中退者支援のための取組 個人面談を定期的に実施、個別のマッチング状況を確認。また、毎月の出席率管理を行い保護者とも連絡を取り登校を促すことで継続意欲を持たせる。			■中退率 6%																					
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 特待生制度  ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																								
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																								
当該学科のホームページURL	ホームページにおいて公開(URL: <a href="http://www.cat.ac.jp/support/subject.html">http://www.cat.ac.jp/support/subject.html</a> )																								

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前公表年月日は空欄としてください。

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について  
①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。  
②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まれません。  
③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年度に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について  
①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の割合をいいます。  
②「就職」とは給料、賞金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)  
認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

教育課程編成委員会においては、本校教育課程充実に向け、各学科関連業界との連携を密にし、現状カリキュラムの確認や今後取り入れていくべき内容についての関連な意見交換を行う。また、審議内容についての本校教育課程への導入等について審議していくものとする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

本委員会は、各学科ごとに実施運営される。本委員会にて決議した内容については学校長へ答申し、学科別会議や各専攻分会、授業別会議等において、内容等について審議したうえで教育課程編成に可能な範囲で反映していくものとする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
井筒 稔晴	一般社団法人日本音楽スタジオ協会	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	①
里見 匡一	有限会社パブリックミュージックワークス	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
平沼 正裕	アームジョブユナイテッド株式会社	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
井尻 健作	株式会社スタジオアッシュ	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
森 久誌	株式会社 フォレスト	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
板坂 裕子	ミュージシャン学科 学科責任者		学校責任者
太田 一行	音楽技術学科 学科責任者		学校責任者
白藤 浩史	総合学科 学科責任者		学校責任者
黒田 桃加	ダンス学科 学科責任者		学校責任者

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(10月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和4年10月11日 15:30～16:30(オンラインにて実施)

第2回 令和5年3月31日 14:00～15:00(オンラインにて実施)

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

意見:音源ができれば、個人で映像を編集して、発信をできる環境を持った若手アーティストが増えてきている。顔出しをしないアーティストも増えており、イラスト等のスライドショーを見せるような表現もよく見かけるようになってきている。  
オーディション、コンテストもなくなることはないが、SNS等、インターネット上での発信から新人発掘を行う方向に比重が寄せられているように感じる。個人での発信を行う重要性は高まってきていると考えられるのではないかと。

活用状況:セルフプロデュースのカリキュラムを増やし、セルフコーディングや配信ライブ制作など、自身で発信できる力を身に付けていくように取り組んでいる。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

本校は、カリキュラム構築・個別授業構築において業界関係企業との連携を密にし、実践に対応した教育内容を提供するために努力していく。また、内容に応じて業界関係企業と提携し、実技・実習・演習等の運営を委託し実施していく。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

- ・講師派遣における学内授業の実施
- ・特別実習における専用施設を使用した実習の実施及び講師派遣
- ・前後期試験の実施、作品/実習等における採点、出席率等総合評価を行う

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
アンサンブル	アンサンブルを通じて、バンドサウンドにおけるリズム、ハーモニー、メロディーなどのアレンジを体得します。また、ステージ上でのルール、マナー、音響・照明・進行に至るまでの知識を理解していきます。	有限会社ヘッドライン

### 3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

#### (1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

教職員が学校の基本方針を理解し業務を遂行する上において、自身の自己研鑽に努めることの必要性を理解するとともに、学生・生徒の人材育成において必要な知識や技術の習得を目的とする。また、全体での実施はもちろん、自己研鑽における自発的な研修参加や音楽活動等についても業務に支障のない範囲でバックアップする。教員は、キャットミュージックカレッジ専門学校「授業運営に関するガイドライン」に基づいて、学園又は各種団体等の研修を受け、資質の向上に努めていく。計画は教務部が定める年間行事予定において示される。

#### (2) 研修等の実績

##### ① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:「ラリーカールトン」

内容:稀代の著名なギタリストの生演奏に直接触れ、演奏表現力の研究を行う

連携企業等: Billboard Live OSAKA

日程: 令和4年6月13日

参加対象(教員): 演奏指導教員 3名

研修名:「ダニエルパウター」

内容:ピアノ引き語りのシンガーソングライターの歌唱に触れ、歌唱表現力の研究を行う。

連携企業等: Billboard Live OSAKA

日程: 令和4年8月5日

参加対象(教員): 演奏指導教員3名

研修名:「THE ORAL CIGARETTES Baあきらかにあきら」

内容:アーティスト活動方法やライブでのパフォーマンス・バンドアンサンブルなどを学ぶ。

連携企業等:(株)グリーンズコーポレーション

日程: 令和4年8月7日

参加対象(教員): 演奏指導教員 3名

研修名:「アルマツケイ オールスターズ」

内容:質の良いベーシックな音楽、著名な演奏家の生演奏に直接触れ、演奏表現力の研究を行う

連携企業等: Billboard Live OSAKA

日程: 令和4年9月15日

参加対象(教員): 演奏指導教員1名

##### ② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 著作権セミナー

内容:教育現場における著作権についての知識を深める

連携企業: エヌラルゴ行政書士事務所

日程: 令和5年3月23日

参加対象(教員): 全体教員90名

#### (3) 研修等の計画

##### ① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 芸術鑑賞会(公演未定)

内容:質の良いベーシックな音楽、著名な演奏家の生演奏に直接触れ、演奏表現力の研究を行う

連携企業等: Billboard Live OSAKA

日程: 令和5年9月

参加対象(教員): 演奏指導教員2名

研修名: Neighbors Complainによるバンドセミナー

内容:海外留学経験があり、その経験を活かして音楽活動を展開しているバンドによる音楽セミナー。作曲やバンドサウンドに関する実演に触れ、教員自身の演奏表現・作曲知識の研究に繋げる。

連携企業: Neighbors Complain

日程: 令和5年10月7日

参加対象(教員): 3名

##### ② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名: サクセスフル・エイジング

内容:「未病を知り健幸華齢な未来を創る」から健全なメンタル～ボディケアを学ぶ

連携企業: 江坂企業協議会

日程: 令和5年5月24日

参加対象(教員): カレッジ企画教員1名

研修名: 京都大作戦

内容:大型フェスイベントでのリユース食器を用いた環境対策へスタッフ参加し、音楽イベント開催時の地域環境対策について知見を深める

連携企業: 地域環境デザイン研究所 ecotone

日程: 令和5年7月1日～7月2日

参加対象(教員): 演奏指導教員1名

研修名: Z世代の育て方講座

内容: Z世代の価値観に合わせた育成方法や指導方法についてのセミナー

連携企業: NPO法人HELLOlife

日程: 令和6年3月

参加対象(教員): 全学科教員90名

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価においては、本校にて実施している自己評価(学校運営・教育活動・学生支援・教育環境・学生の受け入れ募集など)を基に、業界企業・教育団体・地域との連携による教育活動など、本校の活動について説明。そして、さらなる教育活動へつなげていくために様々な角度からその運営が適正に行われているのか等、審議・助言いただき、今後の発展・改善に寄与していく。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目標
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	学修成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受け入れ募集	学生の受け入れ募集
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	※該当なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

意見:江坂近辺でストリートミュージシャンを見なくなったが学生が学外で活動する機会を増やしていくべきではないか。  
活用状況:2022年度には商業施設でライブイベントを行った。コロナ規制緩和と共に、今後も学外でのイベント制作・出演を増やしていくよう検討している。また、2023年度はステージ実習を地元ライブハウスで実施予定、学外で活動する機会を増やし、経験を積んでいくよう指導を行っていく。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和5年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
三原 淑治	エム・アイ・プランニング株式会社 代表取締役	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員
東 龍太郎	科学技術学園高等学校 大阪分室長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	校長等
高橋 国明	第6期生(1994年卒業)(株式会社白竜社取締役)	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	卒業生
石井 博章	江坂企業協議会 副会長 株式会社マルエス サニーストーンホテル 代表取締役社長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	地域関係者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)

URL:<https://www.cat.ac.jp/data/>

公表時期:令和5年10月31日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の理念でもある、“業界にとって信頼できる人材育成機関であること”を実践していくためには、本校教育内容等の情報提供について積極的に行っていくべきである。本校は、学生の日常・教育内容などについてWEBサイト・冊子の発行等を通じて行っていくこととする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校概要、教育理念、教育目標
(2) 各学科等の教育	各専攻カリキュラム概要
(3) 教職員	講師、特別講師
(4) キャリア教育・実践的職業教育	産学協働特別授業、企業の声
(5) 様々な教育活動・教育環境	日常トピックス、行事レポートの公表
(6) 学生の生活支援	※該当なし
(7) 学生納付金・修学支援	募集要項、教育ローンの案内
(8) 学校の財務	学校の財務
(9) 学校評価	自己評価、学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	※該当なし
(11) その他	※該当なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ)

URL:<https://www.cat.ac.jp/data/>

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程ミュージシャン学科ボーカル専攻) 令和5年度																
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			音楽業界概論	音楽業界の歴史的背景や成り立ち、そして、業種の仕組みやその関連業種等についても学びます。著作権、流行情況、ソーシャルメディアへの対応も含め業界への指向を深めていく内容です。	1・2年 通年	120	8	○			○	○			
2	○			音楽史	ポップスの歴史を通して、現在の音楽シーンの成り立ちやジャンルの派生、楽曲やアーティストに関する知識等を研究していきます。	1・2年 通年	120	8	○			○			○	
3	○			音楽理論	音楽の基礎理論と譜面の読み方・書き方を学ぶ事により総合的な音楽知識を習得する授業です。また、音感、リズム感などのミュージシャンとして必須の能力を身につけていきます。また音楽の理論を理解する為の下準備としてコード楽器を弾く事を進行させつつ、基本的な理論を指導する。	1年 通年	60	4	○			○		○		
4	○			音響基礎	演奏することにおける楽器や音響機材、ライブ・コンサートを知るために実践的なかたちで理解を深めます。また、ステージ進行・制作資料などの学習も行います。	1・2年 通年	120	8	○			○			○	
5	○			歌唱技術	歌唱技術を基礎から習得する内容です。正確な音程やリズム感を身につけ、様々な音楽スタイルの理解やニーズに対応できる歌唱表現技術を習得していきます。	1・2年 通年	480	16			○	○			○	
6	○			アンサンブル	アンサンブルを通じて、バンドサウンドにおけるリズム、ハーモニー、メロディーなどのアレンジを体得します。また、ステージ上でのルール、マナー、音響・照明・進行に至るまでの知識を理解していきます。	1・2年 通年	240	8			○	○			○	○
7	○			コーラス	コーラスワークによるハーモニーの習得の授業です。ハーモニーの構築や重要性を体感、バックコーラスから合唱まで幅広いスタイルについて学びます。	1・2年 通年	120	4			○	○			○	
8	○			フィジカルコントロール	ボーカリストにおける体幹強化と柔軟性を中心に指導。発声時における声帯と身体のコントロール、ステージで必要となる様々なパフォーマンスを学びます。	1・2年 通年	120	4			○	○			○	
9	○			音楽理論Ⅱ	基礎的な理論を理解した上で、楽曲の構成や構造を理解していきます。より優れた個性ある演奏に繋げるため、各楽器レベルでの消化に役立てていきます。	2年 通年	60	4	○			○			○	
10	○			ソングライティング	パソコンを活用、様々なジャンルの楽曲のコード理論、進行、メロディ及び歌詞の構成などを分析、研究、理解します。オリジナル楽曲の作成に対する様々なアプローチを学び、完成させていきます。	1・2年 通年	120	8			○		○		○	
11	○			イベント制作	学生たちの自主性を重視したかたちで様々なイベント・コンテンツ等の発表を行います。互いに協力し企画・立案から実施運営に至るまでの内容を学びます。	1・2年 通年	64	2			○	○			○	
12	○			業界研究	演奏系、技術系、総合学科の学生たちが日常学んでいる内容を業界関係者の協力や外部施設利用を含んだかたちで発表していきます。	1・2年 通年	136	4			○	○			○	
合計						12科目		1760単位時間(78単位)								

卒業要件及び履修方法	授業期間等
学則、第21条、第22条に則り、各学期末の試験結果及び所定の出席日数により決定する。 なお、各科目の試験等の内容については、各学科長及び担任と授業担当者で打ち合わせの上決定する。	1学年の学期区分 2期 1学期の授業期間 前期15週、後期15週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地																						
キャットミュージックカレッジ専門学校		昭和63年3月30日	美根 宏史		〒564-0062 大阪府吹田市垂水町3-29-18 (電話) 06-6369-1101																						
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地																						
学校法人大阪創都学園		昭和63年3月30日	鈴木 雅文		〒564-0062 大阪府吹田市垂水町3-29-18 (電話) 06-6369-1101																						
分野	認定課程名	認定学科名		専任	高度専任																						
文化・教養	文化・教養専門課程	ミュージシャン学科ギター専攻		平成17年文部科学省 告示第176号	-																						
学科の目的	教育基本法、及び学校教育法に基づき音楽表現及び楽曲制作に関し必要とされる技能を養成し、又は教育の向上を図ることを目的とする。																										
認定年月日	平成26年3月31日																										
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																				
2	年間	1760	480	240	1040	0	0																				
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																					
80人の内数		68人の内数	4人の内数	8人の内数	32人の内数	40人の内数																					
学期制度	■前期 4月1日～9月30日 ■後期 10月1日～3月31日		成績評価		■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 前後期試験結果及び出席・平常点等総合評価																						
長期休み	■学年始め: 4月11日 ■夏季: 7月21日～8月31日 ■冬季: 12月21日～1月9日 ■学年末: 3月21日		卒業・進級 条件		前後期試験結果及び出席・平常点等総合評価																						
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 電話・家庭訪問及び保護者との情報共有		課外活動		■課外活動の種類 なし ■サークル活動: 無																						
就職等の 状況※2	■主な就職先・業界等(令和4年度卒業生) 音楽・エンタテインメント業界 ■就職指導内容 ・企業研修/就活対策講座/業界企業合同説明会 ・CATチャレンジシステム/公開オーディション ■卒業生数 32 人 ■就職希望者数 11 人 ■就職者数 8 人 ■就職率 73 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 25 % ■その他 ・進学者数: 0人 (令和 4 年度卒業生に関する 令和5年5月1日 時点の情報)		主な学修成果 (資格・検定等) ※3		■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和4年度卒業生に関する令和5年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ビジネス能力検定ジョブパス3級</td> <td>③</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	ビジネス能力検定ジョブパス3級	③	1	1												
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																								
ビジネス能力検定ジョブパス3級	③	1	1																								
中途退学 の現状	■中途退学者 4 名 令和4年4月1日時点において、在学者62名(令和4年4月1日入学者を含む) 令和5年3月31日時点において、在学者63名(令和5年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 ・経済的理由 ・別途進路へ進む為 ■中退防止・中退者支援のための取組 個人面談を定期的の実施。個別のマッチング状況を確認。また、毎月の出席率管理を行い保護者とも連絡を取り登校を促すことで継続意欲を持たせる。		■中退率 6 %																								
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 特待生制度 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																										
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																										
当該学科の ホームページ URL	ホームページにおいて公開(URL: <a href="http://www.cat.ac.jp/support/subject.html">http://www.cat.ac.jp/support/subject.html</a> )																										

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

教育課程編成委員会においては、本校教育課程充実に向け、各学科関連業界との連携を密にし、現状カリキュラムの確認や今後取り入れていくべき内容についての関連な意見交換を行う。また、審議内容についての本校教育課程への導入等について審議していくものとする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

本委員会は、各学科ごとに実施運営される。本委員会にて決議した内容については学校長へ答申し、学科別会議や各専攻分会、授業別会議等において、内容等について審議したうえで教育課程編成に可能な範囲で反映していくものとする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
井筒 稔晴	一般社団法人日本音楽スタジオ協会	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	①
里見 匡一	有限会社パブリックミュージックワークス	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
平沼 正裕	アームジョブユナイテッド株式会社	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
井尻 健作	株式会社スタジオアッシュ	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
森 久誌	株式会社 フォレスト	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
板坂 裕子	ミュージシャン学科 学科責任者		学校責任者
太田 一行	音楽技術学科 学科責任者		学校責任者
白藤 浩史	総合学科 学科責任者		学校責任者
黒田 桃加	ダンス学科 学科責任者		学校責任者

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(10月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和4年10月11日 15:30～16:30(オンラインにて実施)

第2回 令和5年3月31日 14:00～15:00(オンラインにて実施)

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

意見:音源ができれば、個人で映像を編集して、発信ができる環境を持った若手アーティストが増えてきている。顔出しをしないアーティストも増えており、イラスト等のスライドショーを見せるような表現もよく見かけるようになっている。  
オーディション、コンテストもなくなることはないが、SNS等、インターネット上での発信から新人発掘を行う方向に比重が寄せられているように感じる。個人での発信を行う重要性は高まってきていると考えられるのではないかと。  
活用状況:セルフプロデュースのカリキュラムを増やし、セルフレコーディングや配信ライブ制作など、自身で発信できる力を身に付けていくように取り組んでいる。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

本校は、カリキュラム構築・個別授業構築において業界関係企業との連携を密にし、実践に対応した教育内容を提供するために努力していく。また、内容に応じて業界関係企業と提携し、実技・実習・演習等の運営を委託し実施していく。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

- ・講師派遣における学内授業の実施
- ・特別実習における専用施設を使用した実習の実施及び講師派遣
- ・前後期試験の実施、作品/実習等における採点、出席率等総合評価を行う

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
アンサンブル	アンサンブルを通じて、バンドサウンドにおけるリズム、ハーモニー、メロディーなどのアレンジを体得します。また、ステージ上でのルール、マナー、音響・照明・進行に至るまでの知識を理解していきます。	有限会社ヘッドライン

### 3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

#### (1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

教職員が学校の基本方針を理解し業務を遂行する上において、自身の自己研鑽に努めることの必要性を理解するとともに、学生・生徒の人材育成において必要な知識や技術の習得を目的とする。また、全体での実施はもちろん、自己研鑽における自発的な研修参加や音楽活動等についても業務に支障のない範囲でバックアップする。教員は、キャットミュージックカレッジ専門学校「授業運営に関するガイドライン」に基づいて、学園又は各種団体等の研修を受け、資質の向上に努めていく。計画は教務部が定める年間行事予定において示される。

#### (2) 研修等の実績

##### ① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:「ラリーカールトン」

内容:稀代の著名なギタリストの生演奏に直接触れ、演奏表現力の研究を行う

連携企業等: Billboard Live OSAKA

日程: 令和4年6月13日

参加対象(教員): 演奏指導教員 3名

研修名:「ダニエルパウター」

内容:ピアノ引き語りのシンガーソングライターの歌唱に触れ、歌唱表現力の研究を行う。

連携企業等: Billboard Live OSAKA

日程: 令和4年8月5日

参加対象(教員): 演奏指導教員3名

研修名:「THE ORAL CIGARETTES Baあきらかにあきら」

内容:アーティスト活動方法やライブでのパフォーマンス・バンドアンサンブルなどを学ぶ。

連携企業等:(株)グリーンズコーポレーション

日程: 令和4年8月7日

参加対象(教員): 演奏指導教員 3名

研修名:「アルマツェイ オールスターズ」

内容:質の良いベーシックな音楽、著名な演奏家の生演奏に直接触れ、演奏表現力の研究を行う

連携企業等: Billboard Live OSAKA

日程: 令和4年9月15日

参加対象(教員): 演奏指導教員1名

##### ② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 著作権セミナー

内容:教育現場における著作権についての知識を深める

連携企業: エヌラルゴ行政書士事務所

日程: 令和5年3月23日

参加対象(教員): 全体教員90名

#### (3) 研修等の計画

##### ① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 芸術鑑賞会(公演未定)

内容:質の良いベーシックな音楽、著名な演奏家の生演奏に直接触れ、演奏表現力の研究を行う

連携企業等: Billboard Live OSAKA

日程: 令和5年9月

参加対象(教員): 演奏指導教員2名

研修名: Neighbors Complainによるバンドセミナー

内容:海外留学経験があり、その経験を活かして音楽活動を展開しているバンドによる音楽セミナー。作曲やバンドサウンドに関する実演に触れ、教員自身の演奏表現・作曲知識の研究に繋げる。

連携企業: Neighbors Complain

日程: 令和5年10月7日

参加対象(教員): 3名

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:サクセスフル・エイジング

内容:「未病を知り健幸華齢な未来を創る」から健全なメンタル～ボディケアを学ぶ

連携企業:江坂企業協議会

日程:令和5年5月24日

参加対象(教員):カレッジ企画教員1名

研修名:京都大作戦

内容:大型フェスイベントでのリユース食器を用いた環境対策へスタッフ参加し、音楽イベント開催時の地域環境対策について知見を深める

連携企業:地域環境デザイン研究所ecotone

日程:令和5年7月1日～7月2日

参加対象(教員):演奏指導教員1名

研修名:Z世代の育て方講座

内容:Z世代の価値観に合わせた育成方法や指導方法についてのセミナー

連携企業:NPO法人HELLOlife

日程:令和6年3月

参加対象(教員):全学科教員90名

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価においては、本校にて実施している自己評価(学校運営・教育活動・学生支援・教育環境・学生の受け入れ募集など)を基に、業界企業・教育団体・地域との連携による教育活動など、本校の活動について説明。そして、さらなる教育活動へつなげていくために様々な角度からその運営が適正に行われているのか等、審議・助言いただき、今後の発展・改善に寄与していく。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	教育理念・目標
(2)学校運営	学校運営
(3)教育活動	教育活動
(4)学修成果	学修成果
(5)学生支援	学生支援
(6)教育環境	教育環境
(7)学生の受け入れ募集	学生の受け入れ募集
(8)財務	財務
(9)法令等の遵守	法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献
(11)国際交流	※該当なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

意見:江坂近辺でストリートミュージシャンを見なくなったが学生が学外で活動する機会を増やしていくべきではないか。

活用状況:2022年度には商業施設でライブイベントを行った。コロナ規制緩和と共に、今後も学外でのイベント制作・出演を増やしていくよう検討している。また、2023年度はステージ実習を地元ライブハウスで実施予定、学外で活動する機会を増やし、経験を積んでいくよう指導を行っていく。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和5年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
三原 淑治	エム・アイ・プランニング株式会社 代表取締役	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員
東 龍太郎	科学技術学園高等学校 大阪分室長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	校長等
高橋 国明	第6期生(1994年卒業)(株式会社白竜社取締役)	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	卒業生
石井 博章	江坂企業協議会 副会長 株式会社マルエス サニーストーンホテル 代表取締役社長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	地域関係者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)

URL:<https://www.cat.ac.jp/data/>

公表時期:令和5年10月31日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の理念でもある、“業界にとって信頼できる人材育成機関であること”を実践していくためには、本校教育内容等の情報提供について積極的に行っていくべきである。本校は、学生の日常・教育内容などについてWEBサイト・冊子の発行等を通じて行っていくこととする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校概要、教育理念、教育目標
(2) 各学科等の教育	各専攻カリキュラム概要
(3) 教職員	講師、特別講師
(4) キャリア教育・実践的職業教育	産学協働特別授業、企業の声
(5) 様々な教育活動・教育環境	日常トピックス、行事レポートの公表
(6) 学生の生活支援	※該当なし
(7) 学生納付金・修学支援	募集要項、教育ローンの案内
(8) 学校の財務	学校の財務
(9) 学校評価	自己評価、学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	※該当なし
(11) その他	※該当なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法  
(ホームページ)

URL:<https://www.cat.ac.jp/data/>

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程ミュージシャン学科ギター専攻) 令和5年度															
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			音楽業界概論	音楽業界の歴史的背景や成り立ち、そして、業種の仕組みやその関連業種等についても学びます。著作権、流行、ソーシャルメディアへの対応も含め業界への指向を深めていく内容です。	1・2年 通年	120	8	○			○			
2	○			音楽史	ポップスの歴史を通して、現在の音楽シーンの成り立ちやジャンルの派生、楽曲やアーティストに関する知識等を研究していきます。	1・2年 通年	120	8	○			○		○	
3	○			音楽理論	基礎的な音楽理論と音楽ジャンルや各種楽器への理解を深めます。楽典的なものから読譜力や音程・和音や旋律の知識を習得して楽曲に対する理解を広げていきます。	1年 通年	60	4	○			○		○	
4	○			音響基礎	演奏することにおける楽器や音響機材、ライブ・コンサートを知るために実践的なかたちで理解を深めます。また、ステージ進行・制作資料などの学習も行います。	1・2年 通年	120	8	○			○		○	
5	○			演奏技術	演奏技術に関する基礎的な反復練習を行い、無理なく実際の演奏に応用できる技術を養います。演奏するための持久力や安定性を高め、読譜や発想にも力を付けていく内容です。	1・2年 通年	480	16			○	○		○	
6	○			楽器演奏ゼミ	各々が演奏する楽器を通してバンドアンサンブル全体を捉える感覚を身に付けていきます。自分のプレイスタイルを構築していくための実験的ゼミナール型式をとっています。	1・2年 通年	120	4			○	○		○	
7	○			音楽理論Ⅱ	基礎的な理論を理解した上で、楽曲の構成や構造を理解していきます。より優れた個性ある演奏に繋げるため、各楽器レベルでの消化に役立てていきます。	2年 通年	60	4	○			○		○	
8	○			ソングライティング	曲作りの方法としてPC音楽ソフトを使用して簡単な音楽制作・打込みができるように学習します。SNS等でのオリジナル楽曲や動画配信も含めたものとして考えていきます。	1・2年 通年	180	12			○			○	
9		○		リズムゼミ	打楽器を通してリズム構成や構造を学びます。アクセントやアーティキュレーションを理解して実際の演奏にグルーヴ感やダイナミクスが表現できるようにするための学習です。	1年 通年	60	4			○			○	
10	○			アンサンブル	アンサンブルを通じて、バンドサウンドにおけるリズム、ハーモニー、メロディーなどのアレンジを体得します。また、ステージ上でのルール、マナー、音響・照明・進行に至るまでの知識を理解していきます。	1・2年 通年	240	8			○	○		○	
11	○			イベント制作	学生たちの自主性を重視したかたちで様々なイベント・コンテンツ等の発表を行います。互いに協力し企画・立案から実施運営に至るまでの内容を学びます。	1・2年 通年	64	2			○	○		○	
12	○			業界研究	演奏系、技術系、総合学科の学生たちが日常学んでいる内容を業界関係者の協力や外部施設利用を含んだかたちで発表していきます。	1・2年 通年	136	4			○	○		○	
合計						12科目	1760単位時間(82単位)								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
学則、第21条、第22条に則り、各学期末の試験結果及び所定の出席日数により決定する。	1学年の学期区分	2期
なお、各科目の試験等の内容については、各学科長及び担任と授業担当者で打ち合わせの上決定する。	1学期の授業期間	前期15週、後期15週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地																								
キャットミュージックカレッジ専門学校		昭和63年3月30日	美根 宏史		〒564-0062 大阪府吹田市垂水町3-29-18 (電話) 06-6369-1101																								
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地																								
学校法人大阪創都学園		昭和63年3月30日	鈴木 雅文		〒564-0062 大阪府吹田市垂水町3-29-18 (電話) 06-6369-1101																								
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士																								
文化・教養	文化・教養専門課程	ミュージシャン学科ベース専攻		平成17年文部科学省 告示第176号	-																								
学科の目的	教育基本法、及び学校教育法に基づき音楽表現及び楽曲制作に関し必要とされる技能を養成し、又は教育の向上を図ることを目的とする。																												
認定年月日	平成26年3月31日																												
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																						
2	年間	1760	480	240	1040	0	0																						
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																							
80人の内数		68人の内数	4人の内数	8人の内数	32人の内数	40人の内数																							
学期制度	■前期 4月1日～9月30日 ■後期 10月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 前後期試験結果及び出席・平常点等総合評価																								
長期休み	■学年始め: 4月11日 ■夏季: 7月21日～8月31日 ■冬季: 12月21日～1月9日 ■学年末: 3月21日			卒業・進級 条件	前後期試験結果及び出席・平常点等総合評価																								
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 電話・家庭訪問及び保護者との情報共有			課外活動	■課外活動の種類 なし  ■サークル活動: 無																								
就職等の 状況※2	■主な就職先・業界等(令和4年度卒業生) 音楽・エンタテインメント業界			主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和4年度卒業生に関する令和5年5月1日時点の情報)																								
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種	受験者数	合格者数																					※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)  ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																										
中途退学 の現状	■中途退学者 4名 令和4年4月1日時点において、在学者62名(令和4年4月1日入学者を含む) 令和5年3月31日時点において、在学者63名(令和5年3月31日卒業生を含む) ■中途退学的主要原因 ・経済的理由 ・別途進路へ進む為			■中退率 6%	■中退防止・中退者支援のための取組 個人面談を定期的の実施。個別のマッチング状況を確認。また、毎月の出席率管理を行い保護者とも連絡を取り登校を促すことで継続意欲を持たせる。																								
	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 特待生制度  ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載				■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																								
当該学科の ホームページ URL	ホームページにおいて公開(URL: <a href="http://www.cat.ac.jp/support/subject.html">http://www.cat.ac.jp/support/subject.html</a> )																												

(留意事項)

- 公表年月日(※1)  
最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前公表年月日は空欄としてください
- 就職等の状況(※2)  
「就職率」及び「卒業生に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。  
(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について  
①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。  
②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まれません。  
③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。  
※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年度に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。  
(2)「学校基本調査」における「卒業生に占める就職者の割合」の定義について  
①「卒業生に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。  
②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。  
(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。
- 主な学修成果(※3)  
認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針  
教育課程編成委員会においては、本校教育課程充実に向け、各学科関連業界との連携を密にし、現状カリキュラムの確認や今後取り入れていくべき内容についての闊達な意見交換を行う。また、審議内容についての本校教育課程への導入等について審議していくものとする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け  
※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記  
本委員会は、各学科ごとに実施運営される。本委員会にて決議した内容については学校長へ答申し、学科別会議や各専攻分会、授業別会議等において、内容等について審議したうえで教育課程編成に可能な範囲で反映していくものとする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿 令和5年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
井筒 稔晴	一般社団法人日本音楽スタジオ協会	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	①
里見 匡一	有限会社パブリックミュージックワークス	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
平沼 正裕	アームジョブユナイテッド株式会社	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
井尻 健作	株式会社スタジオアッシュ	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
森 久誌	株式会社 フォレスト	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
板坂 裕子	ミュージシャン学科 学科責任者		学校責任者
太田 一行	音楽技術学科 学科責任者		学校責任者
白藤 浩史	総合学科 学科責任者		学校責任者
黒田 桃加	ダンス学科 学科責任者		学校責任者

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期  
(年間の開催数及び開催時期)  
年2回 (10月、3月)  
(開催日時(実績))  
第1回 令和4年10月11日 15:30～16:30(オンラインにて実施)  
第2回 令和5年3月31日 14:00～15:00(オンラインにて実施)

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況  
意見:音源ができれば、個人で映像を編集して、発信をできる環境を持った若手アーティストが増えてきている。顔出しをしないアーティストも増えており、イラスト等のスライドショーを見せるような表現もよく見かけるようになっている。  
オーディション、コンテストもなくなることはないが、SNS等、インターネット上での発信から新人発掘を行う方向に比重が寄せられているように感じる。  
個人での発信を行う重要性は高まってきていると考えられるのではないかと。  
活用状況:セルフプロデュースのカリキュラムを増やし、セルフレコーディングや配信ライブ制作など、自身で発信できる力を身に付けていくように取り組んでいる。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針  
本校は、カリキュラム構築・個別授業構築において業界関係企業との連携を密にし、実践に対応した教育内容を提供するために努力していく。また、内容に応じて業界関係企業と提携し、実技・実習・演習等の運営を委託し実施していく。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容  
※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記  
・講師派遣における学内授業の実施  
・特別実習における専用施設を使用した実習の実施及び講師派遣  
・前後期試験の実施、作品/実習等における採点、出席率等総合評価を行う

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
アンサンブル	アンサンブルを通じて、バンドサウンドにおけるリズム、ハーモニー、メロディーなどのアレンジを体得します。また、ステージ上でのルール、マナー、音響・照明・進行に至るまでの知識を理解していきます。	有限会社ヘッドライン

### 3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

#### (1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

教職員が学校の基本方針を理解し業務を遂行する上において、自身の自己研鑽に努めることの必要性を理解するとともに、学生・生徒の人材育成において必要な知識や技術の習得を目的とする。また、全体での実施はもちろん、自己研鑽における自発的な研修参加や音楽活動等についても業務に支障のない範囲でバックアップする。教員は、キャットミュージックカレッジ専門学校「授業運営に関するガイドライン」に基づいて、学園又は各種団体等の研修を受け、資質の向上に努めていく。計画は教務部が定める年間行事予定において示される。

#### (2) 研修等の実績

##### ① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:「ラリーカールトン」

内容:稀代の著名なギタリストの生演奏に直接触れ、演奏表現力の研究を行う

連携企業等: Billboard Live OSAKA

日程: 令和4年6月13日

参加対象(教員): 演奏指導教員 3名

研修名:「ダニエルパウター」

内容:ピアノ引き語りのシンガーソングライターの歌唱に触れ、歌唱表現力の研究を行う。

連携企業等: Billboard Live OSAKA

日程: 令和4年8月5日

参加対象(教員): 演奏指導教員3名

研修名:「THE ORAL CIGARETTES Baあきらかにあきら」

内容:アーティスト活動方法やライブでのパフォーマンス・バンドアンサンブルなどを学ぶ。

連携企業等:(株)グリーンズコーポレーション

日程: 令和4年8月7日

参加対象(教員): 演奏指導教員 3名

研修名:「アルマツケイ オールスターズ」

内容:質の良いベーシックな音楽、著名な演奏家の生演奏に直接触れ、演奏表現力の研究を行う

連携企業等: Billboard Live OSAKA

日程: 令和4年9月15日

参加対象(教員): 演奏指導教員1名

##### ② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:著作権セミナー

内容:教育現場における著作権についての知識を深める

連携企業:エヌラルゴ行政書士事務所

日程: 令和5年3月23日

参加対象(教員): 全体教員90名

#### (3) 研修等の計画

##### ① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 芸術鑑賞会(公演未定)

内容:質の良いベーシックな音楽、著名な演奏家の生演奏に直接触れ、演奏表現力の研究を行う

連携企業等: Billboard Live OSAKA

日程: 令和5年9月

参加対象(教員): 演奏指導教員2名

研修名: Neighbors Complainによるバンドセミナー

内容:海外留学経験があり、その経験を活かして音楽活動を展開しているバンドによる音楽セミナー。作曲やバンドサウンドに関する実演に触れ、教員自身の演奏表現・作曲知識の研究に繋げる。

連携企業: Neighbors Complain

日程: 令和5年10月7日

参加対象(教員): 3名

##### ② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名: サクセスフル・エイジング

内容:「未病を知り健幸華齢な未来を創る」から健全なメンタル～ボディケアを学ぶ

連携企業: 江坂企業協議会

日程: 令和5年5月24日

参加対象(教員): カレッジ企画教員1名

研修名: 京都大作戦

内容:大型フェスイベントでのリユース食器を用いた環境対策へスタッフ参加し、音楽イベント開催時の地域環境対策について知見を深める

連携企業: 地域環境デザイン研究所 ecotone

日程: 令和5年7月1日～7月2日

参加対象(教員): 演奏指導教員1名

研修名: Z世代の育て方講座

内容: Z世代の価値観に合わせた育成方法や指導方法についてのセミナー

連携企業: NPO法人HELLOlife

日程: 令和6年3月

参加対象(教員): 全学科教員90名

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価においては、本校にて実施している自己評価(学校運営・教育活動・学生支援・教育環境・学生の受け入れ募集など)を基に、業界企業・教育団体・地域との連携による教育活動など、本校の活動について説明。そして、さらなる教育活動へつなげていくために様々な角度からその運営が適正に行われているのか等、審議・助言いただき、今後の発展・改善に寄与していく。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目標
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	学修成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受け入れ募集	学生の受け入れ募集
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	※該当なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

意見: 江坂近辺でストリートミュージシャンを見なくなったが学生が学外で活動する機会を増やしていくべきではないか。  
 活用状況: 2022年度には商業施設でライブイベントを行った。コロナ規制緩和と共に、今後も学外でのイベント制作・出演を増やしていくよう検討している。また、2023年度はステージ実習を地元ライブハウスで実施予定、学外で活動する機会を増やし、経験を積んでいくよう指導を行っていく。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和5年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
三原 淑治	エム・アイ・プランニング株式会社 代表取締役	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員
東 龍太郎	科学技術学園高等学校 大阪分室長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	校長等
高橋 国明	第6期生(1994年卒業)(株式会社白竜社取締役)	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	卒業生
石井 博章	江坂企業協議会 副会長 株式会社マルエス サニーストーンホテル 代表取締役社長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	地域関係者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)

URL: <https://www.cat.ac.jp/data/>

公表時期: 令和5年10月31日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の理念でもある、“業界にとって信頼できる人材育成機関であること”を実践していくためには、本校教育内容等の情報提供について積極的に行っていくべきである。本校は、学生の日常・教育内容などについてWEBサイト・冊子の発行等を通じて行っていくこととする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校概要、教育理念、教育目標
(2) 各学科等の教育	各専攻カリキュラム概要
(3) 教職員	講師、特別講師
(4) キャリア教育・実践的職業教育	産学協働特別授業、企業の声
(5) 様々な教育活動・教育環境	日常トピックス、行事レポートの公表
(6) 学生の生活支援	※該当なし
(7) 学生納付金・修学支援	募集要項、教育ローンの案内
(8) 学校の財務	学校の財務
(9) 学校評価	自己評価、学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	※該当なし
(11) その他	※該当なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ)

URL: <https://www.cat.ac.jp/data/>

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程ミュージシャン学科ベース専攻) 令和5年度															
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			音楽業界概論	音楽業界の歴史的背景や成り立ち、そして、業種の仕組みやその関連業種等についても学びます。著作権、流行、ソーシャルメディアへの対応も含め業界への指向を深めていく内容です。	1・2年通年	120	8	○			○	○		
2	○			音楽史	ポップスの歴史を通して、現在の音楽シーンの成り立ちやジャンルの派生、楽曲やアーティストに関する知識等を研究していきます。	1・2年通年	120	8	○			○	○		
3	○			音楽理論	基礎的な音楽理論と音楽ジャンルや各種楽器への理解を深めます。楽典的なものから読譜力や音程・和音や旋律の知識を習得して楽曲に対する理解を広げていきます。	1年通年	60	4	○			○	○		
4	○			音響基礎	演奏することにおける楽器や音響機材、ライブ・コンサートを知るために実践的なかたちで理解を深めます。また、ステージ進行・制作資料などの学習も行います。	1・2年通年	120	8	○			○	○		
5	○			演奏技術	演奏技術に関する基礎的な反復練習を行い、無理なく実際の演奏に応用できる技術を養います。演奏するための持久力や安定性を高め、読譜や発想にも力を付けていく内容です。	1・2年通年	480	16				○	○	○	
6	○			楽器演奏ゼミ	各々が演奏する楽器を通してバンドアンサンブル全体を捉える感覚を身に付けていきます。自分のプレイスタイルを構築していくための実験的ゼミナール型式をとっています。	1・2年通年	120	4				○	○	○	
7	○			音楽理論Ⅱ	基礎的な理論を理解した上で、楽曲の構成や構造を理解していきます。より優れた個性ある演奏に繋げるため、各楽器レベルでの消化に役立てていきます。	2年通年	60	4	○			○	○		
8	○			ソングライティング	曲作りの方法としてPC音楽ソフトを使用して簡単な音楽制作・打込みができるように学習します。SNS等でのオリジナル楽曲や動画配信も含めたものとして考えていきます。	1・2年通年	180	12				○	○	○	
9		○		コードゼミ	鍵盤楽器を学ぶ事によりハーモニーのイメージやコード進行法を理解してもらい、リズム隊として客観的に自分の役割を考えて演奏できるようにしていきます。	1年通年	60	4				○	○	○	
10	○			アンサンブル	アンサンブルを通じて、バンドサウンドにおけるリズム、ハーモニー、メロディーなどのアレンジを体得します。また、ステージ上でのルール、マナー、音響・照明・進行に至るまでの知識を理解していきます。	1・2年通年	240	8				○	○	○	
11	○			イベント制作	学生たちの自主性を重視したかたちで様々なイベント・コンテンツ等の発表を行います。互いに協力し企画・立案から実施運営に至るまでの内容を学びます。	1・2年通年	64	2				○	○	○	
12	○			業界研究	演奏系、技術系、総合学科の学生たちが日常学んでいる内容を業界関係者の協力や外部施設利用を含んだかたちで発表していきます。	1・2年通年	136	4				○	○	○	
合計					12科目	1760単位時間(82単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
学則、第21条、第22条に則り、各学期末の試験結果及び所定の出席日数により決定する。 なお、各科目の試験等の内容については、各学科長及び担任と授業担当者で打ち合わせの上決定する。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	前期15週、後期15週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地																				
キャットミュージックカレッジ専門学校		昭和63年3月30日	美根 宏史		〒564-0062 大阪府吹田市垂水町3-29-18 (電話) 06-6369-1101																				
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地																				
学校法人大阪創都学園		昭和63年3月30日	鈴木 雅文		〒564-0062 大阪府吹田市垂水町3-29-18 (電話) 06-6369-1101																				
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士																				
文化・教養	文化・教養専門課程	ミュージシャン学科ドラム専攻		平成17年文部科学省 告示第176号	-																				
学科の目的	教育基本法、及び学校教育法に基づき音楽表現及び楽曲制作に関し必要とされる技能を養成し、又は教育の向上を図ることを目的とする。																								
認定年月日	平成26年3月31日																								
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																		
2	年間	1760	480	240	1040	0	0																		
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																			
80人の内数		68人の内数	4人の内数	8人の内数	32人の内数	40人の内数																			
学期制度	■前期 4月1日～9月30日 ■後期 10月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 前後期試験結果及び出席・平常点等総合評価																				
長期休み	■学年始め: 4月11日 ■夏季: 7月21日～8月31日 ■冬季: 12月21日～1月9日 ■学年末: 3月21日			卒業・進級条件	前後期試験結果及び出席・平常点等総合評価																				
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 電話・家庭訪問及び保護者との情報共有			課外活動	■課外活動の種類 なし  ■サークル活動: 無																				
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(令和4年度卒業生) 音楽・エンタテインメント業界			主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和4年度卒業生に関する令和5年5月1日時点の情報)																				
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種	受験者数	合格者数																	※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)  ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																						
中途退学の現状	■中途退学者 4名 令和4年4月1日時点において、在学者62名(令和4年4月1日入学者を含む) 令和5年3月31日時点において、在学者63名(令和5年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 ・経済的理由 ・別途進路へ進む為 ■中退防止・中退者支援のための取組 個人面談を定期的に実施。個別のマッチング状況を確認。また、毎月の出席率管理を行い保護者とも連絡を取り登校を促すことで継続意欲を持たせる。			■中退率	6%																				
	経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 特待生制度 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																							
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																								
当該学科のホームページURL	ホームページにおいて公開(URL: <a href="http://www.cat.ac.jp/support/subject.html">http://www.cat.ac.jp/support/subject.html</a> )																								

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業生に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まれません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年度に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、商学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業生に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業生に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

教育課程編成委員会においては、本校教育課程充実に向け、各学科関連業界との連携を密にし、現状カリキュラムの確認や今後取り入れていくべき内容についての関連な意見交換を行う。また、審議内容についての本校教育課程への導入等について審議していくものとする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

本委員会は、各学科ごとに実施運営される。本委員会にて決議した内容については学校長へ答申し、学科別会議や各専攻分会、授業別会議等において、内容等について審議したうえで教育課程編成に可能な範囲で反映していくものとする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
井筒 稔晴	一般社団法人日本音楽スタジオ協会	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	①
里見 匡一	有限会社パブリックミュージックワークス	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
平沼 正裕	アームジョブユナイテッド株式会社	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
井尻 健作	株式会社スタジオアッシュ	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
森 久誌	株式会社 フォレスト	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
板坂 裕子	ミュージシャン学科 学科責任者		学校責任者
太田 一行	音楽技術学科 学科責任者		学校責任者
白藤 浩史	総合学科 学科責任者		学校責任者
黒田 桃加	ダンス学科 学科責任者		学校責任者

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(10月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和4年10月11日 15:30～16:30(オンラインにて実施)

第2回 令和5年3月31日 14:00～15:00(オンラインにて実施)

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

意見:音源ができれば、個人で映像を編集して、発信をできる環境を持った若手アーティストが増えてきている。顔出しをしないアーティストも増えており、イラスト等のスライドショーを見せるような表現もよく見かけるようになっている。

オーディション、コンテストもなくなることはないが、SNS等、インターネット上での発信から新人発掘を行う方向に比重が寄せられているように感じる。個人での発信を行う重要性は高まってきていると考えられるのではないかと。

活用状況:セルフプロデュースのカリキュラムを増やし、セルフレコーディングや配信ライブ制作など、自身で発信できる力を身に付けていくように取り組んでいる。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

本校は、カリキュラム構築・個別授業構築において業界関係企業との連携を密にし、実践に対応した教育内容を提供するために努力していく。また、内容に応じて業界関係企業と提携し、実技・実習・演習等の運営を委託し実施していく。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

- ・講師派遣における学内授業の実施
- ・特別実習における専用施設を使用した実習の実施及び講師派遣
- ・前後期試験の実施、作品/実習等における採点、出席率等総合評価を行う

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
アンサンブル	アンサンブルを通じて、バンドサウンドにおけるリズム、ハーモニー、メロディーなどのアレンジを体得します。また、ステージ上でのルール、マナー、音響・照明・進行に至るまでの知識を理解していきます。	有限会社ヘッドライン

### 3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

#### (1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

教職員が学校の基本方針を理解し業務を遂行する上において、自身の自己研鑽に努めることの必要性を理解するとともに、学生・生徒の人材育成において必要な知識や技術の習得を目的とする。また、全体での実施はもちろん、自己研鑽における自発的な研修参加や音楽活動等についても業務に支障のない範囲でバックアップする。教員は、キャットミュージックカレッジ専門学校「授業運営に関するガイドライン」に基づいて、学園又は各種団体等の研修を受け、資質の向上に努めていく。計画は教務部が定める年間行事予定において示される。

#### (2) 研修等の実績

##### ① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:「ラリーカールトン」

内容:稀代の著名なギタリストの生演奏に直接触れ、演奏表現力の研究を行う

連携企業等: Billboard Live OSAKA

日程: 令和4年6月13日

参加対象(教員): 演奏指導教員 3名

研修名:「ダニエルパウター」

内容:ピアノ引き語りのシンガーソングライターの歌唱に触れ、歌唱表現力の研究を行う。

連携企業等: Billboard Live OSAKA

日程: 令和4年8月5日

参加対象(教員): 演奏指導教員3名

研修名:「THE ORAL CIGARETTES Baあきらかにあきら」

内容:アーティスト活動方法やライブでのパフォーマンス・バンドアンサンブルなどを学ぶ。

連携企業等:(株)グリーンズコーポレーション

日程: 令和4年8月7日

参加対象(教員): 演奏指導教員 3名

研修名:「アルマツケイ オールスターズ」

内容:質の良いベーシックな音楽、著名な演奏家の生演奏に直接触れ、演奏表現力の研究を行う

連携企業等: Billboard Live OSAKA

日程: 令和4年9月15日

参加対象(教員): 演奏指導教員1名

##### ② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 著作権セミナー

内容:教育現場における著作権についての知識を深める

連携企業: エスラルゴ行政書士事務所

日程: 令和5年3月23日

参加対象(教員): 全体教員90名

#### (3) 研修等の計画

##### ① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 芸術鑑賞会(公演未定)

内容:質の良いベーシックな音楽、著名な演奏家の生演奏に直接触れ、演奏表現力の研究を行う

連携企業等: Billboard Live OSAKA

日程: 令和5年9月

参加対象(教員): 演奏指導教員2名

研修名: Neighbors Complainによるバンドセミナー

内容:海外留学経験があり、その経験を活かして音楽活動を展開しているバンドによる音楽セミナー。作曲やバンドサウンドに関する実演に触れ、教員自身の演奏表現・作曲知識の研究に繋げる。

連携企業: Neighbors Complain

日程: 令和5年10月7日

参加対象(教員): 3名

##### ② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名: サクセスフル・エイジング

内容:「未病を知り健幸華齢な未来を創る」から健全なメンタル～ボディケアを学ぶ

連携企業: 江坂企業協議会

日程: 令和5年5月24日

参加対象(教員): カレッジ企画教員1名

研修名: 京都大作戦

内容:大型フェスイベントでのリユース食器を用いた環境対策へスタッフ参加し、音楽イベント開催時の地域環境対策について知見を深める

連携企業: 地域環境デザイン研究所 ecotone

日程: 令和5年7月1日～7月2日

参加対象(教員): 演奏指導教員1名

研修名: Z世代の育て方講座

内容:Z世代の価値観に合わせた育成方法や指導方法についてのセミナー

連携企業: NPO法人HELLOlife

日程: 令和6年3月

参加対象(教員): 全学科教員90名

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価においては、本校にて実施している自己評価(学校運営・教育活動・学生支援・教育環境・学生の受け入れ募集など)を基に、業界企業・教育団体・地域との連携による教育活動など、本校の活動について説明。そして、さらなる教育活動へつなげていくために様々な角度からその運営が適正に行われているのか等、審議・助言いただき、今後の発展・改善に寄与していく。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目標
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	学修成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受け入れ募集	学生の受け入れ募集
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	※該当なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

意見: 江坂近辺でストリートミュージシャンを見なくなったが学生が学外で活動する機会を増やしていくべきではないか。  
活用状況: 2022年度には商業施設でライブイベントを行った。コロナ規制緩和と共に、今後も学外でのイベント制作・出演を増やしていくよう検討している。また、2023年度はステージ実習を地元ライブハウスで実施予定、学外で活動する機会を増やし、経験を積んでいくよう指導を行っていく。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和5年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
三原 淑治	エム・アイ・プランニング株式会社 代表取締役	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員
東 龍太郎	科学技術学園高等学校 大阪分室長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	校長等
高橋 国明	第6期生(1994年卒業)(株式会社白竜社取締役)	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	卒業生
石井 博章	江坂企業協議会 副会長 株式会社マルエス サニーストーンホテル 代表取締役社長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	地域関係者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)

URL: <https://www.cat.ac.jp/data/>

公表時期: 令和5年10月31日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の理念でもある、“業界にとって信頼できる人材育成機関であること”を実践していくためには、本校教育内容等の情報提供について積極的に行っていくべきである。本校は、学生の日常・教育内容などについてWEBサイト・冊子の発行等を通じて行っていくこととする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校概要、教育理念、教育目標
(2) 各学科等の教育	各専攻カリキュラム概要
(3) 教職員	講師、特別講師
(4) キャリア教育・実践的職業教育	産学協働特別授業、企業の声
(5) 様々な教育活動・教育環境	日常トピックス、行事レポートの公表
(6) 学生の生活支援	※該当なし
(7) 学生納付金・修学支援	募集要項、教育ローンの案内
(8) 学校の財務	学校の財務
(9) 学校評価	自己評価、学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	※該当なし
(11) その他	※該当なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ)

URL: <https://www.cat.ac.jp/data/>

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程ミュージシャン学科ドラム専攻) 令和5年度															
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			音楽業界概論	音楽業界の歴史的背景や成り立ち、そして、業種の仕組みやその関連業種等についても学びます。著作権、流行、ソーシャルメディアへの対応も含め業界への指向を深めていく内容です。	1・2年 通年	120	8	○			○			
2	○			音楽史	ポップスの歴史を通して、現在の音楽シーンの成り立ちやジャンルの派生、楽曲やアーティストに関する知識等を研究していきます。	1・2年 通年	120	8	○			○		○	
3	○			音楽理論	基礎的な音楽理論と音楽ジャンルや各種楽器への理解を深めます。楽典的なものから読譜力や音程・和音や旋律の知識を習得して楽曲に対する理解を広げていきます。	1年 通年	60	4	○			○		○	
4	○			音響基礎	演奏することにおける楽器や音響機材、ライブ・コンサートを知るために実践的なかたちで理解を深めます。また、ステージ進行・制作資料などの学習も行います。	1・2年 通年	120	8	○			○		○	
5	○			演奏技術	演奏技術に関する基礎的な反復練習を行い、無理なく実際の演奏に応用できる技術を養います。演奏するための持久力や安定性を高め、読譜や発想にも力を付けていく内容です。	1・2年 通年	480	16			○	○		○	
6	○			楽器演奏ゼミ	各々が演奏する楽器を通してバンドアンサンブル全体を捉える感覚を身に付けていきます。自分のプレイスタイルを構築していくための実験的ゼミナール型式をとっています。	1・2年 通年	120	4			○	○		○	
7	○			音楽理論Ⅱ	基礎的な理論を理解した上で、楽曲の構成や構造を理解していきます。より優れた個性ある演奏に繋げるため、各楽器レベルでの消化に役立てていきます。	2年 通年	60	4	○			○		○	
8	○			ソングライティング	曲作りの方法としてPC音楽ソフトを使用して簡単な音楽制作・打込みができるように学習します。SNS等でのオリジナル楽曲や動画配信も含めたものとして考えていきます。	1・2年 通年	180	12			○			○	
9		○		コードゼミ	鍵盤楽器を学ぶ事によりハーモニーのイメージやコード進行法を理解してもらい、リズム隊として客観的に自分の役割を考えて演奏できるようにしていきます。	1年 通年	60	4			○			○	
10	○			アンサンブル	アンサンブルを通じて、バンドサウンドにおけるリズム、ハーモニー、メロディーなどのアレンジを体得します。また、ステージ上でのルール、マナー、音響・照明・進行に至るまでの知識を理解していきます。	1・2年 通年	240	8			○	○		○	
11	○			イベント制作	学生たちの自主性を重視したかたちで様々なイベント・コンテンツ等の発表を行います。互いに協力し企画・立案から実施運営に至るまでの内容を学びます。	1・2年 通年	64	2			○	○		○	
12	○			業界研究	演奏系、技術系、総合学科の学生たちが日常学んでいる内容を業界関係者の協力や外部施設利用を含んだかたちで発表していきます。	1・2年 通年	136	4			○	○		○	
合計					12科目	1760単位時間(82単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
学則、第21条、第22条に則り、各学期末の試験結果及び所定の出席日数により決定する。	1学年の学期区分	2期
なお、各科目の試験等の内容については、各学科長及び担任と授業担当者で打ち合わせの上決定する。	1学期の授業期間	前期15週、後期15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地																								
キャットミュージックカレッジ専門学校		昭和63年3月30日	美根 宏史		〒564-0062 大阪府吹田市垂水町3-29-18 (電話) 06-6369-1101																								
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地																								
学校法人大阪創都学園		昭和63年3月30日	鈴木 雅文		〒564-0062 大阪府吹田市垂水町3-29-18 (電話) 06-6369-1101																								
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士																								
文化・教養	文化・教養専門課程	ミュージシャン学科キーボード専攻		平成17年文部科学省 告示第176号	-																								
学科の目的	教育基本法、及び学校教育法に基づき音楽表現及び楽曲制作に関し必要とされる技能を養成し、又は教育の向上を図ることを目的とする。																												
認定年月日	平成26年3月31日																												
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																						
2	年間	1760	480	240	1040	0	0																						
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																							
80人の内数		68人の内数	4人の内数	8人の内数	32人の内数	40人の内数																							
学期制度	■前期 4月1日～9月30日 ■後期 10月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 前後期試験結果及び出席・平常点等総合評価																								
長期休み	■学年始め: 4月11日 ■夏季: 7月21日～8月31日 ■冬季: 12月21日～1月9日 ■学年末: 3月21日			卒業・進級条件	前後期試験結果及び出席・平常点等総合評価																								
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 電話・家庭訪問及び保護者との情報共有			課外活動	■課外活動の種類 なし  ■サークル活動: 無																								
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(令和4年度卒業生) 音楽・エンタテインメント業界			主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和4年度卒業生に関する令和5年5月1日時点の情報)																								
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種	受験者数	合格者数																					※別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)  ■自由記述欄 (例) 認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																										
中途退学の現状	■中途退学者 4名 令和4年4月1日時点において、在学者62名(令和4年4月1日入学者を含む) 令和5年3月31日時点において、在学者63名(令和5年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 ・経済的理由 ・別途進路へ進む為 ■中退防止・中退者支援のための取組 個人面談を定期的に実施。個別のマッチング状況を確認。また、毎月の出席率管理を行い保護者とも連絡を取り登校を促すことで継続意欲を持たせる。			■中退率 6%																									
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 特待生制度  ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																												
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																												
当該学科のホームページURL	ホームページにおいて公開(URL: <a href="http://www.cat.ac.jp/support/subject.html">http://www.cat.ac.jp/support/subject.html</a> )																												

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について  
①「就職率」とは、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年度に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について  
①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他定期的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

教育課程編成委員会においては、本校教育課程充実に向け、各学科関連業界との連携を密にし、現状カリキュラムの確認や今後取り入れていくべき内容についての関連な意見交換を行う。また、審議内容についての本校教育課程への導入等について審議していくものとする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

本委員会は、各学科ごとに実施運営される。本委員会にて決議した内容については学校長へ答申し、学科別会議や各専攻分会、授業別会議等において、内容等について審議したうえで教育課程編成に可能な範囲で反映していくものとする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
井筒 稔晴	一般社団法人日本音楽スタジオ協会	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	①
里見 匡一	有限会社パブリックミュージックワークス	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
平沼 正裕	アームジョブユナイテッド株式会社	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
井尻 健作	株式会社スタジオアッシュ	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
森 久誌	株式会社 フォレスト	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
板坂 裕子	ミュージシャン学科 学科責任者		学校責任者
太田 一行	音楽技術学科 学科責任者		学校責任者
白藤 浩史	総合学科 学科責任者		学校責任者
黒田 桃加	ダンス学科 学科責任者		学校責任者

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(10月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和4年10月11日 15:30～16:30(オンラインにて実施)

第2回 令和5年3月31日 14:00～15:00(オンラインにて実施)

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

意見:音源ができれば、個人で映像を編集して、発信をできる環境を持つた右予アーティストが増えている。顔出しをしないアーティストも増えており、イラスト等のスライドショーを見せるような表現もよく見かけるようになっている。

オーディション、コンテストもなくなることはないが、SNS等、インターネット上での発信から新人発掘を行う方向に比重が寄せられているように感じる。個人での発信を行う重要性は高まってきていると考えられるのではないかと。

活用状況:セルフプロデュースのカリキュラムを増やし、セルフレコーディングや配信ライブ制作など、自身で発信できる力を身に付けていくように取り組んでいる。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

本校は、カリキュラム構築・個別授業構築において業界関係企業との連携を密にし、実践に対応した教育内容を提供するために努力していく。また、内容に応じて業界関係企業と提携し、実技・実習・演習等の運営を委託し実施していく。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

- ・講師派遣における学内授業の実施
- ・特別実習における専用施設を使用した実習の実施及び講師派遣
- ・前後期試験の実施、作品/実習等における採点、出席率等総合評価を行う

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
アンサンブル	アンサンブルを通じて、バンドサウンドにおけるリズム、ハーモニー、メロディーなどのアレンジを体得します。また、ステージ上でのルール、マナー、音響・照明・進行に至るまでの知識を理解していきます。	有限会社ヘッドライン

### 3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

#### (1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

教職員が学校の基本方針を理解し業務を遂行する上において、自身の自己研鑽に努めることの必要性を理解するとともに、学生・生徒の人材育成において必要な知識や技術の習得を目的とする。また、全体での実施はもちろん、自己研鑽における自発的な研修参加や音楽活動等についても業務に支障のない範囲でバックアップする。教員は、キャットミュージックカレッジ専門学校「授業運営に関するガイドライン」に基づいて、学園又は各種団体等の研修を受け、資質の向上に努めていく。計画は教務部が定める年間行事予定において示される。

#### (2) 研修等の実績

##### ① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:「ラリーカールトン」

内容: 稀代の著名なギタリストの生演奏に直接触れ、演奏表現力の研究を行う

連携企業等: Billboard Live OSAKA

日程: 令和4年6月13日

参加対象(教員): 演奏指導教員 3名

研修名:「ダニエルパウター」

内容: ピアノ引き語りのシンガーソングライターの歌唱に触れ、歌唱表現力の研究を行う。

連携企業等: Billboard Live OSAKA

日程: 令和4年8月5日

参加対象(教員): 演奏指導教員3名

研修名:「THE ORAL CIGARETTES Baあきらかにあきら」

内容: アーティスト活動方法やライブでのパフォーマンス・バンドアンサンブルなどを学ぶ。

連携企業等: (株)グリーンズコーポレーション

日程: 令和4年8月7日

参加対象(教員): 演奏指導教員 3名

研修名:「アルマツケイ オールスターズ」

内容: 質の良いベーシックな音楽、著名な演奏家の生演奏に直接触れ、演奏表現力の研究を行う

連携企業等: Billboard Live OSAKA

日程: 令和4年9月15日

参加対象(教員): 演奏指導教員1名

##### ② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 著作権セミナー

内容: 教育現場における著作権についての知識を深める

連携企業: エヌラルゴ行政書士事務所

日程: 令和5年3月23日

参加対象(教員): 全体教員90名

#### (3) 研修等の計画

##### ① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 芸術鑑賞会(公演未定)

内容: 質の良いベーシックな音楽、著名な演奏家の生演奏に直接触れ、演奏表現力の研究を行う

連携企業等: Billboard Live OSAKA

日程: 令和5年9月

参加対象(教員): 演奏指導教員2名

研修名: Neighbors Complainによるバンドセミナー

内容: 海外留学経験があり、その経験を活かして音楽活動を展開しているバンドによる音楽セミナー。作曲やバンドサウンドに関する実演に触れ、教員自身の演奏表現・作曲知識の研究に繋げる。

連携企業: Neighbors Complain

日程: 令和5年10月7日

参加対象(教員): 3名

##### ② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名: サクセスフル・エイジング

内容: 「未病を知り健幸華齢な未来を創る」から健全なメンタル～ボディケアを学ぶ

連携企業: 江坂企業協議会

日程: 令和5年5月24日

参加対象(教員): カレッジ企画教員1名

研修名: 京都大作戦

内容: 大型フェスイベントでのリユース食器を用いた環境対策へスタッフ参加し、音楽イベント開催時の地域環境対策について知見を深める

連携企業: 地域環境デザイン研究所 ecotone

日程: 令和5年7月1日～7月2日

参加対象(教員): 演奏指導教員1名

研修名: Z世代の育て方講座

内容: Z世代の価値観に合わせた育成方法や指導方法についてのセミナー

連携企業: NPO法人HELLOlife

日程: 令和6年3月

参加対象(教員): 全学科教員90名

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価においては、本校にて実施している自己評価(学校運営・教育活動・学生支援・教育環境・学生の受け入れ募集など)を基に、業界企業・教育団体・地域との連携による教育活動など、本校の活動について説明。そして、さらなる教育活動へつなげていくために様々な角度からその運営が適正に行われているのか等、審議・助言いただき、今後の発展・改善に寄与していく。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目標
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	学修成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受け入れ募集	学生の受け入れ募集
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	※該当なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

意見：江坂近辺でストリートミュージシャンを見なくなったが学生が学外で活動する機会を増やしていくべきではないか。  
 活用状況：2022年度には商業施設でライブイベントを行った。コロナ規制緩和と共に、今後も学外でのイベント制作・出演を増やしていくよう検討している。また、2023年度はステージ実習を地元ライブハウスで実施予定、学外で活動する機会を増やし、経験を積んでいくよう指導を行っていく。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和5年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
三原 淑治	エム・アイ・プランニング株式会社 代表取締役	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員
東 龍太郎	科学技術学園高等学校 大阪分室長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	校長等
高橋 国明	第6期生(1994年卒業)(株式会社白竜社取締役)	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	卒業生
石井 博章	江坂企業協議会 副会長 株式会社マルエス サニーストーンホテル 代表取締役社長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	地域関係者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)

URL: <https://www.cat.ac.jp/data/>

公表時期: 令和5年10月31日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の理念でもある、“業界にとって信頼できる人材育成機関であること”を実践していくためには、本校教育内容等の情報提供について積極的に行っていくべきである。本校は、学生の日常・教育内容などについてWEBサイト・冊子の発行等を通じて行っていくこととする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校概要、教育理念、教育目標
(2) 各学科等の教育	各専攻カリキュラム概要
(3) 教職員	講師、特別講師
(4) キャリア教育・実践的職業教育	産学協働特別授業、企業の声
(5) 様々な教育活動・教育環境	日常トピックス、行事レポートの公表
(6) 学生の生活支援	※該当なし
(7) 学生納付金・修学支援	募集要項、教育ローンの案内
(8) 学校の財務	学校の財務
(9) 学校評価	自己評価、学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	※該当なし
(11) その他	※該当なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ)

URL: <https://www.cat.ac.jp/data/>

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程ミュージシャン学科キーボード専攻) 令和5年度																
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			音楽業界概論	音楽業界の歴史的背景や成り立ち、そして、業種の仕組みやその関連業種等についても学びます。著作権、流行、ソーシャルメディアへの対応も含め業界への指向を深めていく内容です。	1・2年 通年	120	8	○			○		○		
2	○			音楽史	ポップスの歴史を通して、現在の音楽シーンの成り立ちやジャンルの派生、楽曲やアーティストに関する知識等を研究していきます。	1・2年 通年	120	8	○			○			○	
3	○			音楽理論	基礎的な音楽理論と音楽ジャンルや各種楽器への理解を深めます。楽典的なものから読譜力や音程・和音や旋律の知識を習得して楽曲に対する理解を広げていきます。	1年 通年	60	4	○			○		○		
4	○			音響基礎	演奏することにおける楽器や音響機材、ライブ・コンサートを知るために実践的なかたちで理解を深めます。また、ステージ進行・制作資料などの学習も行います。	1・2年 通年	120	8	○			○			○	
5	○			演奏技術	演奏技術に関する基礎的な反復練習を行い、無理なく実際の演奏に応用できる技術を養います。演奏するための持久力や安定性を高め、読譜や発想にも力を付けていく内容です。	1・2年 通年	480	16			○	○				○
6	○			楽器演奏ゼミ	各々が演奏する楽器を通してバンドアンサンブル全体を捉える感覚を身に付けていきます。自分のプレイスタイルを構築していくための実験的ゼミナール型式をとっています。	1・2年 通年	120	4			○	○				○
7	○			音楽理論Ⅱ	基礎的な理論を理解した上で、楽曲の構成や構造を理解していきます。より優れた個性ある演奏に繋げるため、各楽器レベルでの消化に役立てていきます。	2年 通年	60	4	○			○				○
8	○			ソングライティング	曲作りの方法としてPC音楽ソフトを使用して簡単な音楽制作・打込みができるように学習します。SNS等でのオリジナル楽曲や動画配信も含めたものとして考えていきます。	1・2年 通年	180	12			○		○			○
9		○		リズムゼミ	打楽器を通してリズム構成や構造を学びます。アクセントやアーティキュレーションを理解して実際の演奏にグルーブ感やダイナミクスが表現できるようにするための学習です。	1年 通年	60	4			○		○			○
10	○			アンサンブル	アンサンブルを通じて、バンドサウンドにおけるリズム、ハーモニー、メロディーなどのアレンジを体得します。また、ステージ上でのルール、マナー、音響・照明・進行に至るまでの知識を理解していきます。	1・2年 通年	240	8			○	○				○
11	○			イベント制作	学生たちの自主性を重視したかたちで様々なイベント・コンテンツ等の発表を行います。互いに協力し企画・立案から実施運営に至るまでの内容を学びます。	1・2年 通年	64	2			○	○				○
12	○			業界研究	演奏系、技術系、総合学科の学生たちが日常学んでいる内容を業界関係者の協力や外部施設利用を含んだかたちで発表していきます。	1・2年 通年	136	4			○	○				○
合計				12科目						1760単位時間(82単位)						

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
学則、第21条、第22条に則り、各学期末の試験結果及び所定の出席日数により決定する。 なお、各科目の試験等の内容については、各学科長及び担任と授業担当者が打ち合わせの上決定する。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	前期15週、後期15週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地																				
キャットミュージックカレッジ専門学校		昭和63年3月30日	美根 宏史		〒564-0062 大阪府吹田市垂水町3-29-18 (電話) 06-6369-1101																				
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地																				
学校法人大阪創都学園		昭和63年3月30日	鈴木 雅文		〒564-0062 大阪府吹田市垂水町3-29-18 (電話) 06-6369-1101																				
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士																				
文化・教養	文化・教養専門課程	ミュージシャン学科ミュージッククリエイター専攻		平成17年文部科学省 告示第176号	-																				
学科の目的	教育基本法、及び学校教育法に基づき音楽表現及び楽曲制作に関し必要とされる技能を養成し、又は教育の向上を図ることを目的とする。																								
認定年月日	平成26年3月31日																								
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																		
2	年間	1760	420	360	980	0	0																		
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																			
80人の内数		68人の内数	4人の内数	8人の内数	32人の内数	40人の内数																			
学期制度	■前期 4月1日～9月30日 ■後期 10月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 前後期試験結果及び出席・平常点等総合評価																				
長期休み	■学年始め: 4月11日 ■夏季: 7月21日～8月31日 ■冬季: 12月21日～1月9日 ■学年末: 3月21日			卒業・進級 条件	前後期試験結果及び出席・平常点等総合評価																				
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 電話・家庭訪問及び保護者との情報共有			課外活動	■課外活動の種類 なし  ■サークル活動: 無																				
就職等の 状況※2	■主な就職先・業界等(令和4年度卒業生) 音楽・エンタテインメント業界			主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和4年度卒業生に関する令和5年5月1日時点の情報)																				
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>映像音響処理技術者資格認定試験</td> <td>③</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種	受験者数	合格者数	映像音響処理技術者資格認定試験	③	1	1													※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)  ■自由記述欄
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																						
映像音響処理技術者資格認定試験	③	1	1																						
中途退学 の現状	■中途退学者 4名 令和4年4月1日時点において、在学者62名(令和4年4月1日入学者を含む) 令和5年3月31日時点において、在学者63名(令和5年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の本来的理由 ・経済的理由 ・別途進路へ進む為			■中退率 6%	※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)  ■自由記述欄																				
	■中退防止・中退者支援のための取組 個人面談を定期的の実施。個別のマッチング状況を確認。また、毎月の出席率管理を行い保護者とも連絡を取り登校を促すことで継続意欲を持たせる。																								
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 特待生制度  ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																								
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																								
当該学科の ホームページ URL	ホームページにおいて公開(URL: <a href="http://www.cat.ac.jp/support/subject.html">http://www.cat.ac.jp/support/subject.html</a> )																								

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業生に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まれません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年度に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業生に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業生に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1) 教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針

教育課程編成委員会においては、本校教育課程充実に向け、各学科関連業界との連携を密にし、現状カリキュラムの確認や今後取り入れていくべき内容についての関連な意見交換を行う。また、審議内容についての本校教育課程への導入等について審議していくものとする。

(2) 教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

本委員会は、各学科ごとに実施運営される。本委員会にて決議した内容については学校長へ答申し、学科別会議や各専攻分会、授業別会議等において、内容等について審議したうえで教育課程編成に可能な範囲で反映していくものとする。

(3) 教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
井筒 稔晴	一般社団法人日本音楽スタジオ協会	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	①
里見 匡一	有限会社パブリックミュージックワークス	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
平沼 正裕	アームジョブユナイテッド株式会社	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
井尻 健作	株式会社スタジオアッシュ	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
森 久誌	株式会社 フォレスト	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
板坂 裕子	ミュージシャン学科 学科責任者		学校責任者
太田 一行	音楽技術学科 学科責任者		学校責任者
白藤 浩史	総合学科 学科責任者		学校責任者
黒田 桃加	ダンス学科 学科責任者		学校責任者

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ① 業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
- ② 学会や学術機関等の有識者
- ③ 実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4) 教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回（10月、3月）

(開催日時(実績))

第1回 令和4年10月11日 15:30～16:30(オンラインにて実施)

第2回 令和5年3月31日 14:00～15:00(オンラインにて実施)

(5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

意見①: デモ音源であっても高いクオリティが求められている。カリキュラム内でも工夫してはどうか。

意見②: プラグイン(音声ソフトウェアの機能拡張)製品の動向について、音楽制作現場においては、サブスクリプション化へトレンド移行していく状況をよく踏まえながら対応を進めていく事が望ましいと思う。定番となるものが決まってきたり、それらの学習は継続したうえで、新しい動向をカリキュラムへ反映し、設備導入等を検討していけば良い。

活用状況①②: 「Cubase実技」科目内授業カリキュラムを再確認し、現行の定番となるプラグインの取り扱いを改良させていく。また、クリエイター間で拡がりを見せているプラグインや、サブスクリプション化となっているプラグインも含め、学生が実習等で触れることができるよう、実習教室の制作環境へ導入を検討し、順次進めていきたいと考えている。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

本校は、カリキュラム構築・個別授業構築において業界関係企業との連携を密にし、実践に対応した教育内容を提供するために努力していく。また、内容に応じて業界関係企業と提携し、実技・実習・演習等の運営を委託し実施していく。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

- ・講師派遣における学内授業の実施
- ・特別実習における専用施設を使用した実習の実施及び講師派遣
- ・前後期試験の実施、作品/実習等における採点、出席率等総合評価を行う

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
DAW	Cubaseでの打ち込みを中心にM1オーディオ編集から簡単なレコーディングに至るまで、Cubaseの基本的な機能を理解して自由に操作出来るように練習します。	株式会社OM FACTORY
制作実習	楽曲制作の全工程(作曲～TDまで)をCubaseで完結させる手法を学ぶ制作作業です。各自がデジタルベースでの作品制作を行いながら学んでいきます。	株式会社OM FACTORY

### 3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

#### (1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

教職員が学校の基本方針を理解し業務を遂行する上において、自身の自己研鑽に努めることの必要性を理解するとともに、学生・生徒の人材育成において必要な知識や技術の習得を目的とする。また、全体での実施はもちろん、自己研鑽における自発的な研修参加や音楽活動等についても業務に支障のない範囲でバックアップする。教員は、キャットミュージックカレッジ専門学校「授業運営に関するガイドライン」に基づいて、学園又は各種団体等の研修を受け、資質の向上に努めていく。計画は教務部が定める年間行事予定において示される。

#### (2) 研修等の実績

##### ① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名: Shingo Miura with THE STRINGS大阪公演

内容: 音楽クリエイターと弦楽クインテッドによるアンビエント音楽演奏に触れ、弦楽5重奏を用いた現代音楽への見識を深める

連携企業: NPO法人神戸学友協会

日程: 令和4年6月24日

参加対象: 音楽教員1名

研修名: 宝塚歌劇星組公演「デミトリー曙光に散る、紫の花~/JUGUAR BEAT」

内容: 国内屈指であり、また専属団員育成のための高等音楽教育機関を有する劇団の公演から、生演奏による劇半の音楽と良質な演出に触れる

連携企業: 宝塚歌劇団

日程: 令和4年12月8日

参加対象(教員): 音楽教員1名

##### ② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 著作権セミナー

内容: 教育現場における著作権についての知識を深める

連携企業: エヌラルゴ行政書士事務所

日程: 令和5年3月23日

参加対象(教員): 全体教員90名

#### (3) 研修等の計画

##### ① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 宝塚歌劇月組公演「フリーゲル -君がくれた翼-」 「万華鏡百景色」

内容: 国内屈指であり、また専属団員育成のための高等音楽教育機関を有する劇団の公演から、生演奏による劇半の音楽と良質な演出に触れる

連携企業: 宝塚歌劇団

日程: 令和5年9月14日

参加対象(教員): 音楽教員1名

研修名: Neighbors Complainによるバンドセミナー

内容: 海外留学経験があり、その経験を活かして音楽活動を展開しているバンドによる音楽セミナー。作曲やバンドサウンドに関する実演に触れ、教員自身の演奏表現・作曲知識の研究に繋げる。

連携企業: Neighbors Complain

日程: 令和5年10月7日

参加対象(教員): 3名

##### ② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名: サクセスフル・エイジング

内容: 「未病を知り健幸華齢な未来を創る」から健全なメンタル～ボディケアを学ぶ

連携企業: 江坂企業協議会

日程: 令和5年5月24日

参加対象(教員): カレッジ企画教員1名

研修名: 京都大作戦

内容: 大型フェスイベントでのリユース食器を用いた環境対策へスタッフ参加し、音楽イベント開催時の地域環境対策について知見を深める

連携企業: 地域環境デザイン研究所ecotone

日程: 令和5年7月1日～7月2日

参加対象(教員): 演奏指導教員1名

研修名: Z世代の育て方講座

内容: Z世代の価値観と、個の状況に合わせた育成方法や指導方法の紹介

連携企業: NPO法人HELLOlife

日程: 令和6年3月

参加対象(教員): 全学科教員90名

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価においては、本校にて実施している自己評価(学校運営・教育活動・学生支援・教育環境・学生の受け入れ募集など)を基に、業界企業・教育団体・地域との連携による教育活動など、本校の活動について説明。そして、さらなる教育活動へつなげていくために様々な角度からその運営が適正に行われているのか等、審議・助言いただき、今後の発展・改善に寄与していく。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目標
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	学修成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受け入れ募集	学生の受け入れ募集
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	※該当なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

意見:生徒の自己表現の仕方が変わってきている。自己最適化された指導がより必要とされているのではないかと。  
 活用状況:専攻の特性上、学生創作物の表現志向は多岐に渡る。職業的な創作においては商業音楽やポピュラリティを念頭に置くことを教授していくが、同時に個の得意を強みとして活かし、個別に最適化された指導となるよう、講師と連携を取りながら進めていく。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和5年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
三原 淑治	エム・アイ・プランニング株式会社 代表取締役	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員
東 龍太郎	科学技術学園高等学校 大阪分室長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	校長等
高橋 国明	第6期生(1994年卒業)(株式会社白竜社取締役)	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	卒業生
石井 博章	江坂企業協議会 副会長 株式会社マルエス サニーストーンホテル 代表取締役社長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	地域関係者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)

URL:<https://www.cat.ac.jp/data/>

公表時期:令和5年10月31日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の理念でもある、“業界にとって信頼できる人材育成機関であること”を実践していくためには、本校教育内容等の情報提供について積極的に行っていくべきである。本校は、学生の日常・教育内容などについてWEBサイト・冊子の発行等を通じて行っていくこととする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校概要、教育理念、教育目標
(2) 各学科等の教育	各専攻カリキュラム概要
(3) 教職員	講師、特別講師
(4) キャリア教育・実践的職業教育	産学協働特別授業、企業の声
(5) 様々な教育活動・教育環境	日常トピックス、行事レポートの公表
(6) 学生の生活支援	※該当なし
(7) 学生納付金・学修支援	募集要項、教育ローンの案内
(8) 学校の財務	学校の財務
(9) 学校評価	自己評価、学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	※該当なし
(11) その他	※該当なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ)

URL:<https://www.cat.ac.jp/data/>

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程ミュージシャン学科ミュージッククリエイター専攻) 令和5年度																
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			音楽業界概論	音楽業界の歴史的背景や成り立ち、そして、業種の仕組みやその関連業種等についても学びます。著作権、流行、ソーシャルメディアへの対応も含め業界への指向を深めていく内容です。	1・2年 通年	120	8	○			○				
2	○			音楽史	ポップスの歴史を通して、現在の音楽シーンの成り立ちやジャンルの派生、楽曲やアーティストに関する知識等を研究していきます。	1・2年 通年	120	8	○			○				○
3	○			音楽理論	基礎的な音楽理論と音楽ジャンルや各種楽器への理解を深めます。楽典的なものから読譜力や音程・和音や旋律の知識を習得して楽曲に対する理解を広げていきます。	1年 通年	60	4	○			○			○	
4	○			音響基礎	楽器や音響機材について理解を広げ、1人1台のデジタルコンソールを使用して音作りやバランス、エフェクター操作などのミキシングを学びます。	1・2年 通年	120	8	○			○				○
5	○			DAW	Cubaseでの打ち込みを中心にMIDI・オーディオ編集から簡単なレコーディングに至るまで、Cubaseの基本的な機能を理解して自由に操作出来るように練習します。	1・2年 通年	180	6			○	○				○
6	○			アレンジメント	編曲の基礎知識や技法を学習、既成曲の分析も含めメロディー・ハーモニー・リズムの構築方法を研究していく内容です。	1・2年 通年	240	16			○					○
7	○			シンセサイザー	シンセサイザーを理解し、操作・音色制作を行うことを目的とします。また、デジタルであるコンピュータ上のソフトウェアシンセサイザーに対する理解も深めます。	1・2年 通年	120	4			○	○				○
8	○			制作実習	楽曲制作の全工程（作曲～TDまで）をCubaseで完結させる手法を学ぶ制作作業です。各自がデジタルベースでの作品制作を行いながら学んでいきます。	1・2年 通年	240	8			○	○				○
9	○			プロダクション	楽曲制作を実際の楽器演奏で完結させる手法を学びます。スタジオ制作での譜面作成・ミュージシャンへのディレクション手法を行っていきます。	1・2年 通年	240	8			○	○				○
10	○			ソングライティング	職業作家としての楽曲制作手法を学びます。クライアント（依頼者）からの発注に対して、ひとりのクリエイターとしての柔軟な発想や対応力を発揮できるように育てていきます。	1・2年 通年	120	8			○					○
11	○			イベント制作	学生たちの自主性を重視したかたちで様々なイベント・コンテンツ等の発表を行います。互いに協力し企画・立案から実施運営に至るまでの内容を学びます。	1・2年 通年	64	2			○	○				○
12	○			業界研究	コンペ・オーディション形式での楽曲査定を行います。学生自身が他の学生から評価をもらい、制作者とリスナーの認識の差異を意識することを目的とします。	1・2年 通年	136	4			○	○				○
合計						12科目	1760単位時間(84単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
学則、第21条、第22条に則り、各学期末の試験結果及び所定の出席日数により決定する。	1学年の学期区分	2期
なお、各科目の試験等の内容については、各学科長及び担任と授業担当者が打ち合わせの上決定する。	1学期の授業期間	前期15週、後期15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。